

2018熊日広告賞

「2018熊日広告賞」で上位入賞した9点が10月3日から8日まで、鶴屋百貨店(熊本市中央区)の地下2階連絡通路に展示される。昨年9月から今年8月までに、熊日の朝夕刊と生活情報紙「くまにち すばいす」「あれんじ」などに掲載された県内広告主の広告を審査。計146点の応募の中から、最高賞のグランプリをはじめ、「朝

刊・夕刊」「生活情報紙」の部門別に優秀賞などを選んだ。グランプリの鶴屋百貨店の広告は、関東・関西の県関係団体向けに月1回発行する熊日の無料情報紙「くまもと元気ばい新聞」に掲載された。上位9点(一部は連作の部分のみ)と審査員3氏の評を紹介する。(広告主の後のカッコ内は取り扱い社、敬称略)

崇城大芸術学部教授 三枝泰之さん

未来への夢描いて

審査員評



グランプリの作品は地元の読者に伝わっていないものの広く社会性があり、熊本復興を伝えていた。全体的に「未来へつなぐ」「次の50年へ」など、広告主の「宣言」が多くみられた。ただ新聞広告の持つダイナミックさは見られなかった。デザインのにも伝え方が小粒だと感じた。いまの広告は商品や情報が先に立って、ビジネスから共感を生み、文学性を持つ作品が少なくなっている。一昔前はもっと物語性を持って想像力をかき立て、見えない未来へのロマンがあった。今後は未来に対して夢のあるメッセージをどれだけ描けるかだと思う。